

○副議長（曾根嘉明議員） 次に、永田美津江さん。

〔4番 永田美津江さん登壇〕

○4番（永田美津江さん） 私は現在、公益財団法人日本ゲートボール連合公認の審判員をして、地域の普及に努めております。健康だからこそできる、生かされていることに感謝し、今後の高齢者福祉と中心市街地の活性化について提言いたします。

今年度より、公会堂を拠点に高齢者の居場所づくり事業を推進していくと聞いています。先月、6月21日、シルバー人材センターの総会の席上で、染谷市長のお言葉でした。以心伝心でしょうか。私は胸の高鳴りを覚え、喜びに満ちていました。優しい思いやり、温かいお心の染谷市長を誇りに思います。

核家族化で高齢化社会の到来は、ひとり暮らしや老老介護の問題が多々あります。また、高齢者の15%が認知症を患っていると言われていた現状では、認知介護等の新たな課題も出てきております。そういう状況の下、島田市の取り組みは高く評価するものです。

私は、高齢者福祉施策に合わせ、地域活性化施策として、市が空き店舗を借りて、老若男女が集える多世代交流型の憩いの場づくりとなる「(仮称)まちかどふれあいサロン」を提案します。まちなかのにぎわい創出につながっていく仕掛けも考えていきたいと思っています。

そこで以下、質問いたします。

1の(1)島田市に公会堂の数はどれくらいありますか。また、ひとり暮らしの高齢者は何人いますか。

(2)認知症と診断された人は何人いますか。

(3)中心市街地の空き店舗は、現在、何軒ありますか。

(4)中心市街地の(仮称)まちかどふれあいサロンを設置するお考えはありますか。設置したら、どれくらいの予算が必要となりますか。

以上で、私の質問を終わります。

〔4番 永田美津江さん発言席へ移動〕

○副議長（曾根嘉明議員） 染谷市長。

〔市長 染谷絹代登壇〕

○市長（染谷絹代） 永田美津江さん、ありがとうございます。

1の(1)の御質問についてお答えをさせていただきます。市内には231の公会堂がございます。また、ひとり暮らしの高齢者の数は、平成26年4月1日現在、3,782人でございます。ちなみに、島田市の65歳以上の高齢者は2万7,996人で、そのうち男性は1万2,295人、女性は1万5,701人でございます。

次に、1の(2)の御質問についてお答えをいたします。

今年6月に静岡県が実施した「徘徊等で行方不明となった認知症の人等に関する実態調査」による島田市の認知症と思われる高齢者の数は、2,415人であります。

次に、1の(3)の御質問についてお答えをいたします。

中心市街地である駅前中央通商店街から本通七丁目七商会における空き店舗の件数は、平成26年7月の調査時点において34軒となっております。なお、空き店舗の活用については、その多くが店舗併用住宅のため、第三者への貸し出しが進んでいないという現状があると伺っております。

次に、1の(4)の御質問についてお答えをいたします。

ふれあいサロンについては、高齢者の介護予防や閉じこもり防止対策として効果があると認識をいたしております。永田さんからの御提案があった中心市街地への(仮称)まちかどふれあいサロンの設置については、中心市街地への新たな来客者の増加や多世代の交流など中心市街地の活性化につながるものと思われま。

また、空き店舗を利用して設置する場合の費用

については、空き店舗の規模や設備によっても異なりますが、おおよそ家賃が年間に約120万円、その他、内装や空調設備等の改装費、テーブルや椅子などの備品代等も必要になりますので、開設には年間で300万円程度の費用がかかるものと思われます。

御提案いただきましたまちかどふれあいサロンの設置につきましては、高齢者福祉と中心市街地活性化の両面から先進事例等を参考にし、調査研究してまいりたいと考えております。

以上、御答弁を申し上げます。

再質問につきましては担当部長から答えさせる場合がありますので、よろしく願いをいたします。

○副議長（曾根嘉明議員） 永田さん。

○4番（永田美津江さん） (4)の提案には、高齢者の皆さんが100万ボルトの笑顔になれるような御検討をお願いいたします。また、シルバー人材センターの基本方針の中に、行政との連携を密にし、シルバーが担う分野に積極的に対応するとありますが、仕事の受注より会員の人数が多く、アンバランスの現状です。まちかどふれあいサロンは、行政とシルバーの共存の実現の一步につながると思います。また、シルバーの支援にもなります。喜ばしい御検討をいただきますようお願いいたします。

○副議長（曾根嘉明議員） 染谷市長。

○市長（染谷綱代） 永田さん、御意見をありがとうございます。シルバー人材センターと行政との協働ということで御提案をいただきました。私もシルバー人材センターの現状をよく存じ上げておりますし、行政との協働の中でお仕事ができるだけ多く発注できればというふうに、それも心遣いをしております。

しかし一方で、この居場所づくりにつきましては、市内の各自治会や地区社協においてボランティアでやってくださっているところが増えてきて

おりまして、地域の方たちが地域の高齢者を支えるという居場所づくりを片やボランティアでやってくださっているところに、一方でお給料を出してシルバーをお願いするという、このアンバランスがございますので、是非、高齢者の居場所づくり事業につきましては、私としては地域の方々の御支援、いわゆるボランティアをもって支えていただけるとありがたいと思っております。

また一方、こうした居場所づくりがどれほど必要であるかということも実感をいたしております。御高齢の方たちにとっては、毎日、身繕いをして出かける場所がある。あるいはお化粧をして出かける場所がある。家にいれば、あれ、これ、それで通じるところが、出かけていけば、しっかりお友達とお話をするのでも、会話ということをしなければなりません。その会話が成り立って楽しい時間を過ごせる、これはとても大事なことでありますので、歩いて行ける場所に半日でもともに過ごせる。自由にお茶を飲んだり楽しんだりできる場所、そして、できればそれが多世代間交流の場に広がっていくことを私は強く期待をして、そうした政策を進めていきたいと考えております。

是非、居場所づくりと、そこに集う方たち、その必要性は理解しているものの、それを今、地域のボランティアで支えていただいている現状がある中で、本通りだけシルバー人材センターをお願いするというのがなかなか難しい状況であることを御理解いただきまして、シルバー人材センターにはほかの分野において行政との協働が図れるように私も努力してまいりますので、御理解いただければと思います。

○副議長（曾根嘉明議員） 永田さん。

○4番（永田美津江さん） ありがとうございます。

以上で、私の意見を終わります。